

## 予防安全技術の自動車アセスメント評価への導入について

予防安全技術の自動車アセスメント評価への導入については、第1回自動車アセスメント評価検討会(本年6月)においてロードマップを策定したところ。

予防安全技術のうち①横滑り防止装置(ESC)については新型自動車に装着が義務化され、②被害軽減ブレーキ(AEB)については諸外国において評価導入に向けた検討が進んでいること等から具体的な導入方法等についてタスクフォースにて問題点の整理等を行った。

### 1. ESC

#### (1) タスクフォースにおける検討結果

- ① Euro NCAP の試験方法、評価方法の状況を把握した。Euro NCAP では、ESC装着が義務化(Sine with Dwell 試験)され、それだけで十分な事故低減効果が見込めることから、新たにESC評価を行ったとしても安全性能の向上幅が少ないとして検討を断念した。
- ② Sine with Dwell 試験の条件変更(速度、操舵量、車両重量)は、以下の理由により効果が少ないと判断した。
  - ・ Sine with Dwell 試験のESCの作動を確認するため強制的にスピン状態を発生させるものであるため、その試験パラメータの変更は、スピンを発生しやすくするという意味合いが高い。
  - ・ Sine with Dwell 試験の操舵方法はステアリングマシンを使用して初めて可能となるもので、既に人の操作限界を超えており、これ以上の操舵方法の変更は意味がない。
- ③ Sine with Dwell 試験は高 $\mu$ 路における試験法であり、また、Euro NCAP は専ら高 $\mu$ 路におけるESCの性能評価を検討したことから、低 $\mu$ 路の試験方法について調査する必要がある。また、高 $\mu$ 路であってもEuro NCAP で検討した以外の試験方法については検討されていない。

#### (2) 今後の予定

- ① 平成24年度は低 $\mu$ 路におけるSine with Dwell 試験、連続Sine入力試験、ステップ入力試験、ステップ入力+制動試験、旋回 $\mu$ ジャンプ試験により方法を調査することとした。
- ② 高 $\mu$ 路の試験方法については、日本自動車工業会において調査予定。
- ③ 今後、調査結果を基にESCの試験方法、評価方法の検討を行う。

### 2. AEB

#### (1) タスクフォースにおける検討結果

Euro NCAP の試験方法、評価方法の進捗状況を把握した。

#### (2) 今後の予定

平成24年度は諸外国の検討状況について情報収集及びAEBの効果予測(予防安全技術全般を含む。)を踏まえた評価方法の検討を行い、次年度以降に試験方法等の調査研究を行う。

【参考】

予 防 安 全 技 術		評 価 開 始 時 期
ESC	Sine with Dwell 試験法を用いる場合	平成 25 年度
	それ以外の試験方法を用いる場合	平成 26 年度
AEB	対 車 両	平成 26 年度
	対 歩 行 者	平成 27 年度
レーンキープアシスト		平成 28 年度
ふらつき警報		開発動向を踏まえ検討
夜間歩行者警報		平成 29 年度
その他の予防安全装置		技術の進展等を踏まえ検討